

INVITATION

EHIME UNIVERSITY HOSPITAL 愛媛大学医学部附属病院 広報誌

71

WINTER 2023

がん患者の人生をサポートする 愛大がん診療支援体制

- 01 | がん患者さんと家族を支える治療と緩和ケア
- 02 | 安心して治療を受けるために寄り添う存在でありたい
- 03 | がんゲノム医療を正しく伝え、診療に繋げる

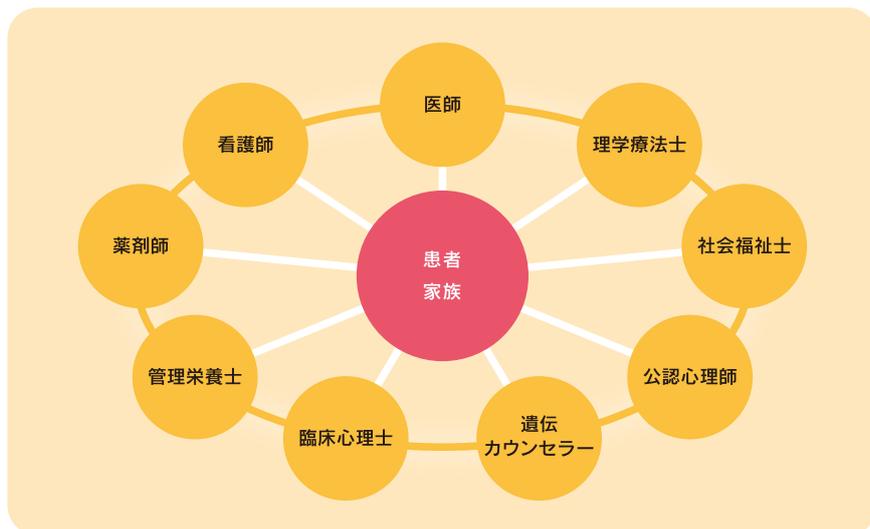


仕事始め式

令和5年 新春

がん診療特集・腫瘍センター&緩和ケアセンター活動紹介

がん患者さんと家族を支える治療と緩和ケア

腫瘍センター センター長 薬師神芳洋
緩和ケアセンター センター長 藤井 知美

薬師神 ● 最新の治療は薬の変遷によって、臓器や進行度によって抗がん剤を使うのではなくってきています。ホルモン剤が乳がんや前立腺がんに使えたり、オプジーボは適合すればどの腫瘍にも使えたりと、現在の抗がん剤は臓器による垣根がなくなってきています。そのため外来化学療法室が設置され、主治医の治療方針に沿って化学療法を行っています。臓器・化学療法の両方に病棟

を分けることでマンパワーを集中させています。緩和ケアセンターについては活動の中心となっている藤井先生から説明をお願いします。

藤井 ● まず「緩和ケア」と聞いたとき、多くの方が終末期医療とイメージすると思います。しかし、がんが疑われるような場合やがん診断時から身体的・精神的苦痛があれば、それを和らげるためのケアとして緩和ケアを行っています。がん治療と緩和ケアは両輪です。緩和ケアの目標は、患者さんの人生を守り、生活の質を改善することです。がんという病気を持つ患者さんが生活の改善をするためにはがんの治療がまず必要ですが、その治療を十分に受けるために痛みを取ったり眠ったり症状を和らげるものが緩和ケアです。

当院の緩和ケアセンターの主な役割は、①緩和ケアチームの運営と②院内外への緩和ケアの普及です。①については、地域がん診療連携拠点病院である当院には緩和ケアチームの設置が必須となっており、がん患者さんへの診療においても必要かつ重要な部門であるとの考えからチームを運営し、入院患者さん



PROFILE

やくしじんよしひろ◎愛媛大学医学部・附属病院教授。医学博士。がん化学療法を専門に活躍する。1993年愛媛大学大学院医学研究科修了。日本血液学会、日本臨床腫瘍学会などの専門医・指導医も務める。

や外来患者さんへの緩和ケアを行っています。②に関しては研修医の方に緩和ケアの研修会を受けていただいたり、緩和ケアの専門外の先生にもそうしたマインドを伝える研修などを行ったりしています。県が注力している在宅緩和ケアにも参画しています。

薬師神 ● 藤井先生には次世代の育成もお願いします。

藤井 ● 薬師神先生が私と同じことを考えていることを初めて知りました。学生や研修医、若手の医師への緩和ケアの普及とともに、私のような緩和ケアの専門医、指導医も育てていかないといけないと思っています。

薬師神 ● 今回紹介する塩見さん（がん看護の専門看護師）、江口先生（小児科の診療とがんゲノムの両立）の負担も相当だと思います。皆さんにも次世代の育成をしていただきたいですし、病院にも継続する仕組み作りが必要だと考えています。



PROFILE

ふじいともみ◎1993年愛媛大学医学部卒業。麻酔科に入局し研鑽を積み、痛みの治療に携わる。2015年から現職。日本緩和医療学会専門医、日本麻酔科学会指導医、日本ペインクリニック学会専門医。

がん相談支援センター紹介

安心して治療を受けるために寄り添う存在でありたい

総合診療サポートセンター 副看護師長 塩見 美幸

全国のがん診療連携拠点病院にがんに関する相談窓口が必ず設置されており、当院では総合診療サポートセンターがその役割を担っています。センターではがん相談員として看護師や医療ソーシャルワーカーが、がんの診断を受けての不安やショック、言い表せない気持ちから、がん診療の分からないことまで様々な思いや悩みに寄り添います。また必要に応じて、臨床心理士や栄養士、薬剤師、遺伝カウンセラーなどとも協力して対応します。もちろん専門的な医療相談にも対応できるよう、院内の密な連携にも力を入れています。

多くの方は、がんと診断されると頭が真っ白になったり気持ちの整理がつかず何を相談したらいいのかわからなかったりすると思います。そうしたありのままの気持ちを話せる場所があること、気持ちを軽くしながら診療と生活や仕事のことを相談できる場所があるということを患者やご家族の方には知っていただきたいです。



愛媛の療養情報をまとめた冊子



PROFILE

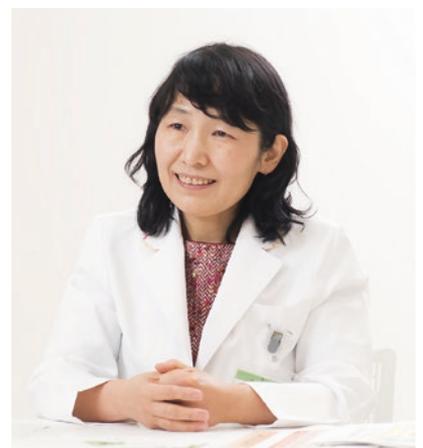
しおみゆき◎2003年名古屋大学医学部保健学科看護学専攻卒業。内科病棟を経て、2011年より医療福祉支援センター（現：総合診療サポートセンター）に勤務。2011年がん看護専門看護師の資格取得。趣味はピアノ。

がんゲノム検査外来紹介

がんゲノム医療を正しく伝え、診療に繋げる

臨床遺伝医療部 部長 江口 真理子

臨床遺伝医療部では遺伝性と考えられる病気に関して、遺伝子の検査などを行い診断や治療法に繋げるとともに、遺伝や遺伝子に関わる知識や情報を提供し、不安や悩み、問題を抱えている患者さんが理解し納得できるように一緒に今後の方針について考えます。遺伝医療の一つであるがんゲノム医療にも携わり、最新の医療情報を伝え、保険・自費診療による遺伝子検査の案内も行っています。今のがんゲノム医療は、主にがんの組織を用いて、がん細胞がもつ遺伝子の変化を調べる「がん遺伝子パネル検査」に基づいて行われます。検査でがん細胞の遺伝子の変化を解析することで、がんの性質が明らかになり、体質やそれぞれのがんに合わせた治療が可能となります。薬師神先生も述べられていますが、臓器別の薬ではなく、遺伝子変異の種類で使う薬が決まることががんゲノム医療の特徴です。がんゲノム検査を受けるのにはいくつかの条件がありますが、相談はどなたでも可能。がんゲノム医療によりがんになりやすい体質が見いだされ、ご本人だけでなくご家族のがんの早期発見や予防に繋がることもあります。私の専門は小児がん。9月の世界小児がん啓発キャンペーンに合わせて、今年も市民公開講座を行います。がんゲノム医療は日進月歩の分野。セミナーなどで積極的に情報発信していきます。



PROFILE

えぐちまりこ◎広島大学医学部卒業。2008年より当院、2019年より愛媛大学大学院医学系研究科小児科学教授、附属病院臨床遺伝医療部部長。専門分野は小児科学、血液腫瘍学、遺伝学。出生前から成人までの遺伝医療に携わる。



TOPICS

附属病院でライトアップを実施



臓器移植医療キャンペーン：緑色（10月16日）



世界糖尿病デー：青色（11月24日）



世界エイズデー：赤色（12月5日）



白衣授与式を実施

令和4年11月14日（月）、医学部創立40周年記念講堂で、医学科4年生115人を対象とした白衣授与式を実施しました。授与式では、臨床実習の資格を得た医学生が、実習を通じてチーム医療の重要性等を学びながら将来の医療を担う人材となるべく、白衣に袖を通し、先生方からの激励を受けました。



「ヒトの遺伝子を調べることの意味を理解する 市民公開講座」を開催

令和4年10月2日（日）第83回ヘルスアカデミーをいよつ高島屋9階ローズホールにて開催しました。当院臨床遺伝医療部の江口先生をはじめとした2名の講師が「がんゲノム検査」にまつわる内容の講演を行い、参加者の理解を深めました。

病院機能評価の認定

令和4年8月19日付で当院が「主たる機能：一般病院3」及び「副機能：精神科病院」の認定を受けました。当院は今後とも継続して医療の質改善に取り組み、更なる病院機能の強化に努めます。



令和5年9月29日に医学部は創立50周年を迎えます。

医学部創立50周年記念WEBサイトはこちらからご覧ください。



- 記念のご挨拶
 - 寄附のお願い等
- 順次更新中です。



編集後記

世界中を震撼させた新型コロナウイルスの感染拡大から3年が経ち、正しく恐れながら診療に取り組むことで人々の不安は徐々に緩和されてきました。がんについても同じことが言えると思います。私が医師になった約30年前と比べて診療は著しく進歩し、がんと向き合う体制が整いつつあります。当院では様々な職種が連携し、がん診療支援体制を構築しておりますのでご利用ください。

広報委員会委員長
熊木天児



今月の表紙

令和5年 仕事始め式にて



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111 (代)

情報発信中!



愛媛大学医学部附属病院
ホームページ



医学部及び附属病院
Instagram
(2021年2月1日開設)



杉山隆病院長がパーソナリティを務めるラジオ番組
Dr.杉ちゃんの「ウィークエンドクリニック」
(2021年4月3日スタート、毎週土曜17:30～FM愛媛)